

地域子どもネイチャーゲーム教室報告

社団法人日本ネイチャーゲーム協会
地域子どもネイチャーゲーム教室担当 藤田航平

0. はじめに

「地域子どもネイチャーゲーム教室」(以下、本事業)は、文部科学省委嘱CONE地域子ども教室推進事業の一環として2004年度から2006年度の3年間の継続事業として実施されてきた。日本ネイチャーゲーム協会では、これまで「全国一斉自然とふれあうネイチャーゲーム大会(1992年～2005年)」、「地域ネイチャーゲーム普及促進フェア(子どもゆめ基金助成事業として2001年度より実施)」など、地域の公園などでのネイチャーゲームをはじめとする自然体験活動事業を実施してきた。だが、こうした従来の事業は、いずれも年一回から数回程度のものが多く、開催場所も必ずしも固定されてきたとはいえず、「自然と共生する持続型地域社会の創造(ネイチャーゲーム21世紀ビジョン)」の実現に向けた具体策でもある、(地域の)自然と子どもたちとの関係性(つながり)を深める、という観点からは課題を残していたといえる。これに対し、本事業では、「子どもの居場所」として開催場所が固定され、また年間の開催日数も従来の事業と比較すると高い頻度で実施され、地域の自然と子どもたちとの関係性を深める効果があったと考えられる。事業三年間を終え、本事業の実績、成果についての整理を行い、今後、本事業の継続や同様の事業への取り組みに向けた参考となるように、本事業の3カ年の実績を報告したい。

1. 地域子どもネイチャーゲーム教室の概要

[1. 趣旨]

未来の日本を創る心豊かでたくましい子どもを社会全体で育むため、学校等を活用して、安全・安心な子どもたちの居場所(活動拠点)を設け、地域の大人を指導員として配置し、放課後や週末におけるスポーツや文化活動などのさまざまな体験活動や地域住民との交流活動を支援することを趣旨とし、年間を通じて子どもが安心して、そして安全に遊ぶことのできる居場所を作ることを目的としている。

[2. 主催]

地域子どもネイチャーゲーム教室実行委員会(社団法人日本ネイチャーゲーム協会内に設置)

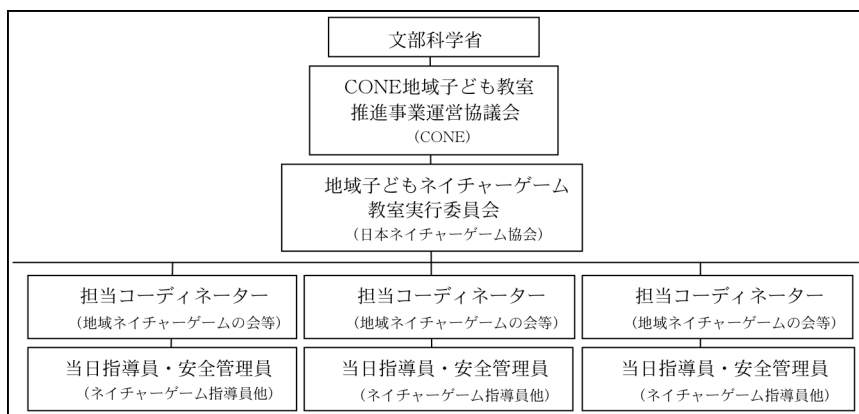
[3. 主管]

都道府県ネイチャーゲーム協会(または準備会)、地域ネイチャーゲームの会、課程認定校ネイチャーゲーム研究会

[4. 運営組織図]

右記

図1. 地域子どもネイチャーゲーム教室運営組織図



[5. 担当コーディネーターの役割]

● 事前準備

- ・ 開催予定作成
- ・ 参加者募集チラシの作成
印刷配布
- ・ 関連組織等へのあいさつ
- ・ 活動へ向けての準備
(下見、教材、スタッフ
の確保・打合わせ等)

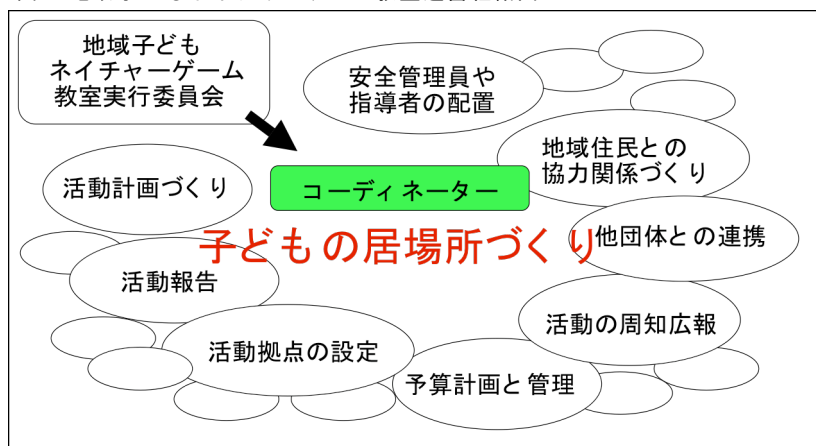
● 活動当日および活動前後

- ・ 安全面への配慮
- ・ 各回活動報告
- ・ 予算計画と管理

● 全事業終了時

- ・ 事業完了報告
- ・ 清算書類の提出
- ・ 関連組織等へのあいさつ

図 1. 地域子どもネイチャーゲーム教室運営組織図



[6. 事業実施期間]

2004 年度～2006 年度

[7. 実施日時]

放課後や土・日・休日（長期休暇等を含む）など 1 回 1～2 時間程度

[8. 参加対象者]

小学生および中学生、また幼児やその保護者が参加可

[9. 活動拠点]

公民館、児童館、学童クラブ集会室、公園など拠点を決め、その拠点を中心に活動

[10. 提供プログラム]

ネイチャーゲーム、自然体験活動プログラム、昔遊び、クラフト、おやつづくり等、地域の状況やニーズにあったプログラムを実施。または子どもたちが自由に遊ぶ時間、場所を提供する

[11. 安全対策]

- ・ 実施する活動、フィールド、その他諸条件を考慮したスタッフ体制を組み、安全面に十分配慮する
- ・ 本事業は日本ネイチャーゲーム協会主催事業と同等と位置づけ保険の適用行事とする
- ・ 事故発生時は、速やかに事故報告書を日本ネイチャーゲーム協会まで提出する

2. 地域子どもネイチャーゲーム教室の実績

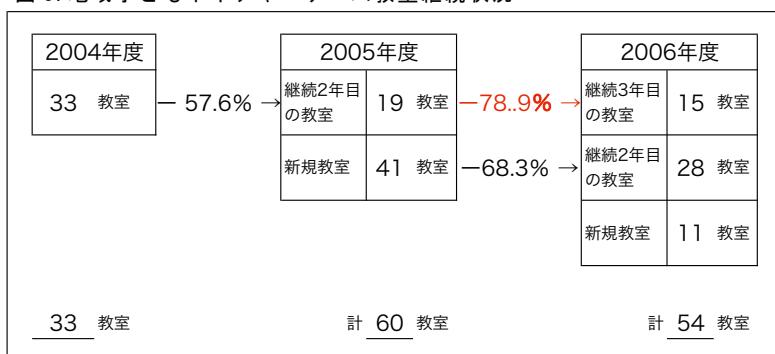
2004 年度は 33 教室が月 1 回程度（半年で 6 回）の教室を開催し、2005 年度は文部科学省からの開催回数増の要求を受け、一教室あたり 30 回を目標に 60 教室が開催された。そして最終年度となる 2006 年度は目標回数 24 回を目指し、54 教室が開催された。

各教室からあげられた報告によると、2004年度は全教室で4,000人近い子どもたちが教室に参加していることがわかる。また2005年度は半分以上の教室が継続して開催し、新たに43教室開催され、2004年度と比べ教室数が2倍となった。また開催回数についても文部科学省の示す目標回数30回を目指して2004年度の5倍となり、総参加者数は8倍近くに増えた。2006年度は2004、2005年度と継続して開催した教室のうち、8割近い教室が3年目に取り組み、2005年度の新規43教室のうち28教室が継続し、新たに11教室を加え、54教室が開催された。

図2. 地域子どもネイチャーゲーム教室開催実績

	教室数	平均開催回数	平均参加子ども数	おおよその総参加者数
2004年度	33	6	19.7	3,900
2005年度	60	28.8	17.1	29,500
2006年度	54	24.5	14.7	19,500
合計	147	16.4	16.3	52,900

図3. 地域子どもネイチャーゲーム教室継続状況



2006年度は2005年度比べて参加者数が減少し、一回あたりの平均参加者数が3名ほど減ってしまっているが、その詳細を見るとある兆候が見られた。それは図4にあるように、継続年数が長ければ長いほど、開催回数が少なくなり、一方で参加者数が多くなるという傾向である。これはより参加しやすい配慮された日程、ニーズに応えた参加し

図4. 2006年度地域子どもネイチャーゲーム教室継続年別実績

	教室開催数 (回)		参加者数 (人)	
	総人数	教室あたり	総人数	教室あたり
継続3年目	329.0	21.9	264.0	17.6
継続2年目	698.0	24.9	427.1	15.3
新規1年目	296.0	26.9	126.0	11.5

たくなる活動内容など魅力的な教室が開催されたことによるものであり、年を追うごとに本事業が地域に根ざした活動へと展開されてきたと考えられるだろう。つまり国による委託により支えられた本事業が終了する19年度以降、本事業やあるいは類似の活動の継続に向けた足がかりとなっており、言い換えれば、これまでの日本ネイチャーゲーム協会が取り組んだ事業では十分に成果をあげられてこられなかった「自然体験活動を組織的に継続的に展開するための基盤づくり」への成果があったといえるのではないだろうか。

本事業に携わったコーディネーターや指導員の方々をはじめとするネイチャーゲームの仲間達の、地域に根ざした「子どもの居場所づくり」への継続的、組織的そして積極的な関わりによって、「自然と共生する持続型地域社会の創造をめざしてネイチャーゲームを推進しよう」というネイチャーゲーム21世紀ビジョンの理念の具現化が進んでいくことを期待したい。

3. 資料 地域子どもネイチャーゲーム教室 参加者・保護者・指導者の感想

<参加者の感想(抜粋)>

- ・ ツリークライミングはちょっと怖いけれど自分で登るのでがんばった。
- ・ いろんなどんぐりでいっぱい楽しいものが作れてよかった。
- ・ 竹で川の音を聞いたけれど、流れの速いところがきれいな音だった。
- ・ 川で動物になってみたり、葉っぱの競争をして面白かった。
- ・ 自然界には同じ物がないんだ。
- ・ 草でいろんな笛を鳴らせるんだということが楽しかった。
- ・ 一枚の紙の作り方がわかった。きれいな紙を自分で作ってよかった。
- ・ はじめは「ただの緑の葉っぱの木」にしか見えなかったけど、それぞれに特徴があることが実感としてわかった。
- ・ いろんないきものがいるのに驚いた。
- ・ 大きなカメとザリガニがいた。
- ・ どの木も同じに見えていたけど違いをよく見ることができた。
- ・ 様々な形をいろんな方向からみるのはおもしろかった。
- ・ 公園の中を目隠しで歩くところを歩いている気がした。
- ・ 前に来たときよりも渡り鳥がたくさん見れて嬉しかった。
- ・ 水の中の生き物たちは冬眠していたのか、じっと動かないようにしていた。体力をつかわないようにだと思った。
- ・ いつも遊ばせてくれてありがとうございます。今度は妹を連れてきます
- ・ 雨の音を聴診器で聴いたのが楽しかった。
- ・ 虫を虫眼鏡で見たのがおもしろかった。
- ・ 登る途中で山ミズや蟹を見つけて観察した。下山中にはテントウムシの抜け殻やさなぎや幼虫を見つけた。
- ・ 畑を耕すと、たくさんのおミズや昆虫の幼虫がいてビックリした。葉っぱの下にはたくさんのお虫たちがいた。
- ・ メダカと思っていた魚がカダヤシで、外来種だったことをはじめて知った。
- ・ 縄跳びに何回も挑戦してやっとたくさん飛べるようになって嬉しかった。
- ・ お父さんたちと一緒にすることがうれしい
- ・ 外でたくさんネイチャーゲームができて楽しかった
- ・ この公園のまわりには歴史的にも貴重な物がいっぱいあることがわかりとても勉強になった。
- ・ 最近、雨が降らないので川の水がとっても減って、魚があまり見えなかった。どこ行ったの？
- ・ ビオトープはくらい、じめじめしているが、おもしろかった。

<保護者の感想(抜粋)>

- ・ お祭りに参加し、子どもたちが地域の高齢者の方々と交流する機会をつくっていただきました。
- ・ 子どもたちが意外なほどすごいものをつくってびっくりしました。子どもたちが生き生きしている様子をみることができました。
- ・ 家族だけではなかなかできない体験ができました。ありがとうございます。
- ・ 子どもたちの喜ぶ顔を見れてよかったです。
- ・ 草木染めは子どもと一緒に楽しんだが、子どもより夢中になっていた。
- ・ 子どもたちと一緒に汗をかきながら草をたたいて草木染めをして面白かったです。
- ・ ネイチャーゲームで普段おろそかになっていた感覚を使うことができとてもよかったです。
- ・ 近頃、子どもたちが周りの自然に目がいくようになりました。
- ・ 私たち自身の子どもの見る目が変わりました。
- ・ 工作をするときは思わず夢中になってしまい、子どものことを忘れてしまうことでした。
- ・ 子どもの活動エリアが少し広くなって、何でも興味をもつようになった。
- ・ 公園に大人が一人でも見守っていることが大切だということがわかってきた。
- ・ 自然とむきあっていると不思議なくらい気持ちが落ち着いてこれからの子育てに活かせそうです。
- ・ 子どもより親のほうが興味を持った。
- ・ 楽しく遊ぶだけでなく、勉強になって良い。
- ・ 子どもたちが真剣にゲームに取り組み、ゲームを堪能するとともに、身近な山野にいろいろな生き物たちが潜んでいることがわかった。
- ・ 子どもが兄弟の話をよく聞くようになってきた。
- ・ スポーツだけでなくこういった活動もとても大事。
- ・ 草でこんなに遊べるなんて感心しました。
- ・ 川は近くにあるがなかなか子どもと遊んだりしないので、とてもいい経験になった。
- ・ いろんな木の実があつて、楽しかった。他の木の実を使っても、作ってみたい。
- ・ 同じ山に登っても季節によって違いを感じる事が出来た。
- ・ 月が大きく見れたので良かった。
- ・ 子どもと一緒にできるのがうれしい。今までに反省。
- ・ よその子どもたちと一緒にあそべてよかったですと思う。
- ・ 子どもがこんなに真剣になるとは思っていなかったので発見だった。
- ・ 単なる山歩きとは違い、自然を観察しながら登ると新たな発見があった。
- ・ 運動が苦手だけど、日頃しないものがあるって興味を持ち出しました。
- ・ 昔を思い出して、つい子どもと話し込んでしまいました。

<指導者の感想(抜粋)>

- ・ 年間の活動にすべて参加している子どもたちは、事前準備等を積極的にスタッフと共にできるようになってきた。
- ・ 子どもたちがまたやりたいと言ってくれるのでやりがいがあります。
- ・ 継続的に活動できる場所があることの大切さを強く感じる。
- ・ 継続的な活動によってそのとき限りでない内容豊富なプログラムを提供できました。
- ・ 身近な所でも十分に自然とふれあうことができるんだという興味が参加者の心にわいてくるのが感じられた。
- ・ 地域を大事にしていくためには、まず地域のことを学ぶ必要があり、子どもたちに地域のことをもっと伝えていきたい。
- ・ 地域の高齢者の方にボランティアをしていただくことで、活動がより大きく充実していています。
- ・ 参加されている保護者の方々が自分の子どもだけでなく、よその子にも気配りをしてくれるようになり、リーダーをサポートしてくれる場面もありました。
- ・ 活動を重ねるにつれて季節の感じ方、自然の微妙な変化に参加者が敏感に気づくようになった
- ・ 少しずつだが、積極的に言葉が出る様になってきた。
- ・ 何組かの家族と顔見知りになり、スタッフも子ども達との関係づくりが徐々にできてきた。
- ・ 地元の子も達こそ、夜の自然を楽しむ機会を増やしたいと思う。
- ・ アイデアいっぱいのクラフトのときは、いつもこちらが感心します。
- ・ 保護者も当初の引率で来たというよりも勉強しに来るような変化がある。
- ・ 参加した子どもたちには「今度いつやるの？」と笑顔で詰め寄られます。
- ・ こちらで何も提供しなくても木の葉で遊んだり、木登りしたり、草花あそびをしたりと自らあそびを作り出せるようになりました。
- ・ 「ここでわたしたちは楽しいことができる」という確信を持っていたように思います。
- ・ 友達の興味あるものや個性を尊重しながら遊べるようになりました。
- ・ 地域の人達との交流もいろいろな面も刺激が多かった。
- ・ 教室活動が生活の中に入っている感じがする。
- ・ 外遊びをもっと根付かせたい。
- ・ 自然について知らなかったことばかりで勉強になりました。
- ・ ビオトープは開発されていない所なのでまさに入ること自体が子ども達には驚きであった。こんなところが自然いっぱいなのだと言うことを体験させたかった。
- ・ 保護者の方にも参加していただいたのでスタッフの目だけではない安全管理をできた。